

令和7年度第1回学校運営協議会議事録（発言要旨）

開催日時：令和7年6月4日 15：30～17：00 於：会議室

◎参加者

学校運営協議会委員：出光委員、渡邊委員、矢田委員、飯田委員、鳥越委員、佐藤委員

本校職員：栗原校長、長瀬副校長、吉居教頭、総括教諭（小柴、久保、遠藤、小松原、田村、黒滝）、吉田、山口、鳶寄

① 本年度学校運営協議会委員の委嘱

本年度の学校運営協議会の会長を出光委員に、評議委員を出光委員、渡邊委員にお願いしたい。 →両委員了承

② 職員、各委員紹介、挨拶

③ 全体会

本校職員：今年度の学校教育計画について説明する。学校評価報告書の各分野については、後ほど、担当の総括教諭より説明する。

学校運営について、職員の世代交代が進む中、総合学科の理念を継承できるようにしていきたい。総合学科高校が誕生して20年以上経ち、総合学科を作りあげてきた教員がほぼ引退している。本校も多分に漏れずかなりの職員が入れ替わっている。

特に、課題研究（探究活動）が総合学科教育の中での肝となるが、その課題研究がここ数年苦しい状況となってきた。というのも、課題研究は基本的には1人の担当教員が15名から20名程度の生徒の指導をしているわけだが、1つの年次で270名ぐらい生徒がいるため、生徒数に対応した数の担当者が必要になる。その中で、担当教員の技量の差は当然あり、研修も行っているが、少し理念や指導方法の継承が厳しくなってきた。

普通科高校においても、現在では「総合的な学習の時間」があり、探究活動というものに力を入れるようになってきている。それにより、総合学科がこれまで取り組んできた課題研究が総合学科の特色と言えるのかどうか、ちょっと苦しくなっている印象である。

この現状を打開するため、何かテコ入れをしなければいけないだろうということを第一の目標としてやっていきたいと思っているが、具体的なテコ入れ策について、いくつかすでに動き始めてはいるが、まだ皆様にお話できる段階には至っていない。

例えば、県内の総合学科高校との連携等もあるが、他県の学校との連携も視野に入れていこうと思っており、それについても今後の会でお話できればと思っている。

委員：普通科で実施されている探究活動と総合学科の探究活動にはどのような違いがあるのか。

本校職員：一言で言うと熱量が違う。その違いとは生徒の知識や能力などの違いになってくると思う。具体的には、いわゆるスーパーサイエンススクールなどでは、探究活動の際に具体的な数値を出した発表をしている。そうすると、我々の発表と比べた時に説得力に差が出てしまっている。実験等で得られた結果を何らかの数値化をして発表する点がアピールポイントになっていると思う。

ただ、一般的な普通科ではそこまで多分力を入れてないのではないかと感じている。多くの普通科には総合学科は負けなと思うが、総合学科は課題研究が肝だと言った時に、あそこの普通科はもっとすごい探究活動をやっていると言われると、そこに対抗できるものを今は提示できない状況である。

ここから各グループの業務内容の説明

・カリキュラムグループ

本グループはカリキュラムの編成や成績処理等について業務を実施している。

本校は総合学科高校ということで、いわゆる英語とか数学のような教科のみならず、社会と関わりながら社会人講師、プロの方に実際に授業をしていただき、本物に触れることを大切にしてきたという経緯がある。

ただ、最近の生徒たちの基礎学力の低下や秩序の乱れは著しく、先ほど話があったが、通常の科目と、そして大切にしていきたい探究活動（ガイダンス）、また実際に本物に触れるという体験ができる、そういった魅力を残しながら、どのような形で生徒たちの基礎学力の充実、学習習慣の形成を図るかがここ数年の課題である。今年度は、その趣旨を生かした形でのカリキュラムの編成を行っていこうと考えている。

また、先ほど申したように生徒を社会との関わりの中で学ばせていくというのも総合学科ならではのと思うので、是非、委員のご協力を頂戴し、生徒たちに様々な体験させていきたい。

・生活・総務グループ

本グループは生徒指導と生徒支援という2つの側面を持つが、どちらにも共通して言えるのが、生徒の情報や困り事を職員間で共有していくことが非常に大切になると考えている。

特に、1年次生はクラスごとに授業を行うが、2年次生以降は大学のように生徒それぞれが異なる時間割で教室を時間ごとに移動するため、担任との関わりが普通科の学校に比べ時間的に減ってしまっている。そこを補うため年次や学校全体の職員で情報を共有し、生徒

へ適切なサポートしていくことが大切になってくると思う。

また、神奈川子どもサポートドックは一昨年から始まったもので、生徒にアンケート形式で回答してもらい、生徒の困りごとを吸い上げるためのリストアップに使われる調査である。

また、生徒の声に出せない声を拾いながら支援につなげていくことを、今年度は中心に精力的に活動していきたいと思っている。

・活動支援グループ

本グループでは、学校行事や委員会活動や生徒会活動、または部活動を通じ、生徒の1人1人のその自らの役割を認識させ、その中で生徒の成長を促していくことを目標としている。

今年度は、すでに、明耀祭といういわゆる体育祭を5月14日に実施し、無事終了した。今後の大きな行事としては、10月24日、25日に翔総祭（文化祭）が控えており、今計画の最中である。

また、部活動については、生徒の加入率がどれぐらいか調べたところ、今年度、4月末の段階で運動部が170名で約21パーセント、文化部が413名で約30パーセント、合わせると約51パーセントの生徒が部活動に参加している。私自身としては意外と少ないなという印象がある。本校であればもうちょっと多くてもよいのではないかという感じがしており、加入率を増やしていくのが目標の一つとなるが、具体的にどうすれば良いのかというのはなかなか難しいところである。

・ガイダンスグループ

本グループでは、本校は総合学科ということで、総合学科に原則的に置かれている「産業社会と人間」という科目と、さらにそれを発展させた探究活動である「ガイダンス」や生徒の進路について主に担っている。

先日放映されたNHKのプロジェクトXをご覧になっただろうか。福井県の水産高校のことが取り上げられていて、生徒と共に教員も勉強しながら授業を作り上げていく。そのような活動ができることがベストという風に思っている。

探究活動では、生徒自らが目標を見つけ、課題を解決できるような力を付けさせたいという風に考えている。ただ、そのためには相当こちら側の準備や、人材も必要になって来る。その辺りが今厳しい状況となっているので、現状から少しでも改善していきたい。

現在では普通科高校でも探究の授業があるが、総合学科としてうまく差別化が図れるような活動を考えていきたいという風に思っている。

今年3月の卒業生の進路については、15名ほどが就職、残りが進学であった。進学の中では大学への進学と、専門学校への進学とがほぼ半々であった。

就職に関しては、希望者全員が就業を希望する企業等に採用された。

大学進学は、以前に比べかなり合格しやすくなっている傾向が続いており、少しでも生徒の可能性を広げられるような進路指導をしていきたいと思っている。

・総合学科推進グループ

昨年までは管理・広報グループと、総合学科推進グループとの両グループを私の方で担当させていただいていた。今年度より、総合学科推進グループに管理・広報グループの広報関係部門業務が吸収された形で業務を行っている。

広報関係としては、最近、私立学校の人気が高く、公立離れが起きている。我々の広報活動としては例年通りではあるが、幸い入試倍率に関しては非常に良い数値を頂戴している。

しかしながら、それに甘えることなく、学校説明会の開催や、中学校の方へ出前説明会として様々な中学校へ我々が出向いて本校や総合学科の特徴をアピールしている。

今年度も沢山の中学校からお声を掛けていただき、先日私が早速とある中学校を訪問したところである。

また、インスタグラムなどのSNSの充実も図り、タイムリーに学校現場の動きが多くの方にアピールできるような形を取っていきたいと考えている。

それ以外に総合学科推進グループの業務としては、校外の企業や大学、高校、専門学校や、他の総合学科高校との連携、調整をし、生徒に様々な機会を与えられるような活動を今年度も引き続き行いたいと思っている。

また、校内での職員向け研修の立案、実施を行っている。研修内容は授業展開等に関することに限らず、人権問題や不祥事防止に関しても取り上げている。引き続きしっかりと研修を重ねていきたいと思っている。

・管理職

働き方改革の一環としてワークライフバランスの充実を進めていこうということで、先ほども少し説明があったが、昨年度まで6つあったグループを今年度から5つに再編した。この狙いとしては、特定の職員に付いている業務を一度剥がし、職員の業務負担の再構築をしていこうというものである。昨年度まではグループで行っていた業務を一度見直して、業務アシスタントの方にお問い合わせしやすい業務については積極的にお願いしていこうとしている。今年度実施・検証してみて、見直しをし、新年度を迎えたいと考えている。

委員：プロジェクトXについて。職業系の学校は「産業」という点で地域とつながりを持ちやすい。しかし、神奈川県は総合学科は普通科色が強いため、そのような点が弱い。金沢区の産業とは何かを知るところからはじめ、地域の生活と関わる産業を探していってほしい。部活動加入の減少については、バイトをせざるを得ない生徒が多いのではないかと。生徒の家庭環境の把握を福祉等と連携して行っていくことが望ましいと思う。また、地域との連携強化は欠かせない。その中で近隣の福祉施設とのつながりを持つことは良いことと思う。

委員：地域との連携を深めるための具体案としては、

- ・認知症予防の体操やリハビリを学校で企画して高齢者を学校へ呼ぶことはできないか。
- ・理学療法士とつながり、高齢者向けの地域体力測定会などを実施できないか。

委員：地域的にシーサイド地区と富岡地区では歴史が違う。本校はその狭間にある学校である。本校生徒は地元出身の生徒が少ないため、地域との関わりが少なくなりがちであるが、同じ学区に支援学校や小学校、中学校があるため、各学校との連携はしやすいのではないか。

委員：地域とのコミュニケーションが取りにくければ、市や区を活用（防災担当など）してもらって構わない。働き方改革については、まずは子どもたちの情報をいかに共有するかが大切と思うが、忙しくて難しい部分もあると思う。更なる業務改善を行い、その点が疎かにならないようにして欲しい。

委員：ワークライフバランスが最も大切と思う。しかし、仕事は減るところか増えている印象がある。また、ペーパーレス化を促進し、迅速かつ漏れのない情報共有を図ることはできないのだろうか。

私立の高校との兼ね合いについては、年々私立高校が人気になっているが、学習環境を整えていくことで、県立高校の良さをアピールしていければ良いと考える。

地域との連携についての具体案としては、

- ・ふなだまりのゴミ拾いを生徒と一緒にできないか。
- ・防災については、今後も連携していきたい。
- ・サマーフェスティバルにはダンス部や吹奏楽部が参加してくれているが、もっと盛り上げられないか。
- ・近隣地域に関わるようなテーマによる課題研究を進められないか。

委員：部活動に所属している生徒が意外と少ないと感じた。学校外での活動をしている生徒が多いのではないか。

－ 休憩 －

④ 各部会

○学校評価部会・キャリア開発部会

<働き方改革について>

本校職員：富岡東中学校に倣い、電話を受ける時間については既に設定済みである。また、欠席連絡をインターネットから行えるようにした。カスタマーハラスメント対策としては、

電話の録音機能を導入した。

全体会でも話は出たが、業務アシスタントの業務を増加させて、教員の業務削減を進めている。

委員：業務アシスタントに個人情報を扱わせることは問題ないのか。

本校職員：個人情報を扱うものについてはお願いしていない。そのため、学事関係（カリキュラムや成績処理等）はどうしても業務を減らすことができない。

委員：法的には業務アシスタントに個人情報を扱わせること自体問題ないのではないのか。

本校職員：県教委から通達が出ているため難しい。

委員：業務アシスタントがもう少し現状の教員の業務に踏み込めたら更なる業務改善につながるのではないのか。

委員：中学校では業務アシスタントに個人情報を扱う業務も行わせている。

本校職員：貴重な意見を頂戴した。県教委に相談してみたい。

委員：業務アシスタントと教員とが同僚である感覚が薄いことはモラル的に問題がありそう。非常勤とはいえ、業務アシスタントと教員との差はないほうが良いのではないのか。

<生徒の学習に向かう態度について>

委員：劣等感を持つ生徒は少なく、過剰にガツガツもしていないし穏やかな生徒が多いと思う。学習に向かう態度をより良いものにしていくには失敗体験も大切ではないのか。

進路選択に関しては、現状指定校推薦枠の中から進路を選択するバイキングのような状況ではあるが、それに甘えるのは良くない。しかし、具体的な方策をどうしたら良いかはなかなか難しい。

委員：部活動の加入率も学力向上に関係あるのだろうか。壁にぶつかってもチームで何かを達成する経験は大切である。生徒が何かを頑張る活力につながるのではないのか。

委員：生徒や教員がひとりの人間としてフラットに語り合える「カタリバ」のようなものがあると学校の雰囲気が変わるのではないのか。学習習慣だったり、普段の経験での失敗体験はあるが、人前で言うことは恥ずかしかったり、誰かに知ってもらう機会がない。みんなの前

で発表できる機会があるとよいと思う。例えば、放課後に部活はしていなくても、習い事や学習など頑張っていることがあるはず。それを共有するための糸口を用意すべき。苦手なことを克服した経験談を発表したりなどが行えると良いと思う。

ものすごく褒められたり貶されたりしていない生徒が多いように感じる。自然な形で互いの自己肯定感を高めていけると良いのではないか。

本校職員：「カタリバ」に近いものがあるといいとは思う。大学等から生徒を呼んだりしてみたい。しかし日程的に難しいのが現状である。

委員：9月頭は大学生も夏休みなので狙い目ではある。

委員：私の勤務先からも社会で活躍している卒業生を是非紹介したい。

<生徒募集について>

本校職員：自分の好きな時間割を組める、ということはアピールできるが、探究活動が多いことは探究活動を既に中学で行っているのであまりアピールにならない。

女子は時間割を自分で決めるのが好きなのに対し、男子は全部決められている方がいい傾向にある。その為、本校の生徒比率は女子生徒7：男子生徒3が変わっていない。今後本校のアピールの方法については模索していきたい。

普通科高校ではあまりないような科目をアピールしたいが、非常勤講師の高齢化に伴い開講できない科目も出てきた。これも大きな課題である。

○地域連携・防災部会

本校職員：今年度の校内での防災訓練はもう既に一回実施している。一度目に関しては、全体で避難をするという訓練ではなく、机上でスマホも使いながらクイズ形式で実施し、学校やこの界隈が海拔何メートルであるとか、どういう避難地域になっているのかなどについて生徒への意識付けを行った。第2回は12月の予定だが、そちらは火災や地震に関するものとする予定である。

昨年、保育園の子どもたちに来校していただき本校で避難訓練を実施した。行ってみて改めて思ったことは、本校の4階以上まで保育園児が登るのだが、これが思ったよりも時間が掛かる等大変であった。

ただ、その様子を見た生徒は実はほとんどおらず、平日昼間に被災した場合は生徒が子供たちを誘導することであろうかと思うので、次回は本校生徒と保育園の子供たちと一緒に訓練をやらせたいと思った。

今年度も障がい者施設や保育園の方に本校に来ていただいて訓練を実施してはどうかと思っている。夏休み中でもいいが、通常授業の時のほうが生徒の目にも触れるため良いので

はないかと思っている。

委員：生徒たちも障がい者施設や保育園等が近隣にあることは頭では分かっていると思うが、実際その中にどんな人がいるのかまでは分かっていないと思う。こちらからも職員を派遣するが、そのような相談ができるといいと思っている。

本校職員：もっと地域と一緒に防災に関わる何かイベントをできないかとは考えているが、地域のどこまでを範囲として考えるものなのかは非常に難しい問題である。

委員：市としては防災には力を入れている。各学校により活動内容は異なるが、区内の小中学校の活動が参考になるかもしれない。また、企業と連携した取り組み（ハマっ子防災プロジェクト）も実施している。確か防災ガイドのようなものを学校と一緒に作る取り組みがあったかと思う。

本校職員：後援会会長は地域協働コーディネーターとして活躍されていると聞いたが。

委員：小学校の地域協働コーディネーターである。地域と小学校での行事の手伝いが主な業務となっている。遠足の引率にも人が足りていないのでボランティアも募集している。高校生にもボランティアに参加してほしいと思うが、基本的に授業時間中なので難しいと思う。

委員：小学校の給食室から出る廃油の回収をし、バイオディーゼル燃料を作り出し、都内に納入している。本来であれば地域の廃油を回収していきたいので、是非高校生にも回収活動に参加してほしい。

本校職員：先ほど話が出たふなだまりの清掃について詳しく聞きたい。

委員：干潮時にゴミが目立つので、生徒と一緒に掃除ができると嬉しい。

委員：SDGsの推進として、市としては2027年に瀬谷区・旭区で行われる国際園芸博覧会が実施されることを紹介しておく。高校生でも参加できるプロジェクトがあるかも知れない。

本校職員：立場の違う方々とお話することは、我々学校側としても新たな刺激となるため、今後も忌憚のないご意見を頂戴したい。

<全体のまとめとして>

委員：我々委員は普段学校内で働いている先生方と立場が違うからこそ、新しい発見があり
見えてくるものがあると感じている。今回何度が話題に上った地域との連携については、永
続的な実施を期待したいところである。